

未来を生きる子どもたちへのメッセージ ①

コウノトリと『心の傷を癒すということ』

1日、愛西市佐織公民館で『コウノトリがやってきた』という講演会に出席しました。市が後援をしたこともあり、また会の運営メンバーがお世話になっている皆さんということもあり、出席しました。愛西市の鉄塔で見つかったコウノトリの卵を兵庫県豊岡市のコウノトリの郷公園で孵化させ、再び愛西市で放鳥したことが話の核となっていました。コウノトリの様々な特徴(コウノトリが元々ロシアの鳥で渡り鳥であったが、日本の留鳥となったこと。農薬と乱獲とアカマツの減少で野鳥としては絶滅したが、人工飼育で復活したこと。肉食でカエルやドジョウ、鮒や蛇を餌としていること。ペアとなったカップルは生涯離れないこと。無農薬・減農薬となり、再び田に小動物が戻ってくるとコウノトリも戻ってきたこと)について興味深くお話を聞くことができました。公民館のホールがほぼいっぱいとなるほど聴衆が集まりました。コウノトリはダイサギやアオサギと餌場が同じで、低地の湿地の生き物を餌としていることが、コウノトリが突然愛西市にやってきた理由と思われます。彼らに適した自然環境が戻ってきたということは、持続可能で環境にやさしい地域なのかもしれません。

最近なかなか本が読めなくなってきました。年齢が高くなったこともあり、集中して本を読むことができなくなりました。そんな中、助けていただいているテレビ番組が「百分 de 名著」(Eテレ)です。以前もお話しましたが、私はこの番組で紹介され、読んでみたいと思った書籍を手取るようにしています。1月に『心の傷を癒すということ』の放映がありました。この本は、阪神淡路大震災に遭遇した精神科医が災害とその時の心のケアについて書いた書籍です。作者の安克昌氏については、彼を主人公としたドラマ番組やドキュメンタリー番組で何度も紹介されています。東日本大震災でも能登半島地震の時も、大きな災害が起きるたびに取り上げられます。私もこの本を手にししました。PTSD(外傷後ストレス障害)という言葉が私たちの生活の中でよく使われるようになったのも、安氏の活躍とこの本が果たした役割が大きかったと思います。また心のケアで大切なことは指示でもアドバイスでもなく、ただうなづいて傾聴することだということが何度も述べられています。この書籍は、いつの日か大きな災害がこの地方を襲ってきたときの大切な指針になると思います。心のケアが大きな課題となっている現在、皆さんにこの書籍を手にとってほしいと思います。そして自分につながる人たちの苦しみや思いを、他人事ではなく自分事にするために読んでいただきたい一冊です。

令和8年2月2日
津島市教育委員会
教育長 浅井厚視